

入 札 公 告

次のとおり一般競争入札に付します。

平成29年 2月 9日

支出負担行為担当官
国立療養所沖縄愛楽園事務部長 竹内 正広

◎ 調達機関番号 017 ◎ 所在地番号 47

1 調達内容

- (1) 品目分類番号 22
- (2) 調達等件名及び数量 免疫自動分析システム一式
- (3) 調達件名の特質等 入札説明書及び仕様書による
- (4) 納入期限 平成29年 3月31日
- (5) 納入場所 国立療養所沖縄愛楽園

(6) 入札の方法

落札者の決定は、最低入札落札方式をもって行うので、落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する金額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2 競争参加資格

- (1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であっても、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。
- (2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。
- (3) 次の事項に該当する者は、競争に参加できない。
 - (ア) 資格審査申請書又は添付書類に虚偽の事実を記載した者。
 - (イ) 経営の状況又は信用度が極度に悪化している者。
- (4) 平成28、29、30年度厚生労働省競争参加資格（全省庁統一資格）において、「物品の製造」（医療機器類）又は「物品の販売」（医療機器類）のB、C又はD等級に格付けされ、九州・沖縄地域の競争参加資格を有する者であること。
- (5) 薬事法に基づく医療機器の販売業の許可を得ていることを、証明した者であること。
- (6) 入札時において厚生労働省から指名停止を受けている期間でないこと。
- (7) 次の各号に掲げる制度が適用される者にあつては、この入札の入札書提出期限の直近2年間（⑤及び⑥については2保険年度）の保険料について滞納がないこ

と。

①厚生年金保険 ②健康保険（全国健康保険協会が管掌するもの）

③船員保険 ④国民年金 ⑤労働者災害補償保険 ⑥雇用保険

(8) 過去1年以内に、厚生労働省所管法令違反により行政処分等を受けていないこと。

3 入札書の提出場所等

(1) 入札書の提出場所、契約条項を示す場所、入札説明書の交付場所及び問合せ先
〒905-1635 沖縄県名護市字済井出1192番地
国立療養所沖縄愛楽園 会計班長 岩橋 竜一
電話番号0980-52-8331 (内線8020)

(2) 入札説明書等の交付方法

本公告の公示の日から3の(1)の場所にて交付、又は、国立療養所沖縄愛楽園のホームページより取得する事。

(3) 競争入札参加への必要書類の提出

平成29年2月23日(木) 17時まで

資格審査結果通知書・暴力団等に該当しない旨の誓約書・応札仕様書・質疑書
(質疑がある場合)

入札にて委任される場合は委任状

(4) 入札書の受領期限

平成29年2月23日(木) 10時30分

(5) 開札の日時及び場所

平成29年2月24日(金) 10時30分

国立療養所沖縄愛楽園 管理棟2階会議室

4. 電子調達システムの利用

本案件は、電子調達システムで行う。なお、電子調達システムによりがたい者は、発注者に申し出た場合に限り紙入札方式に変えることができる。

5. その他

(1) 契約手続きにおいて使用する言語及び通貨 日本語及び日本国通貨

(2) 入札保証金及び契約保証金 免除

(3) 入札者に要求される事項

この一般競争に参加を希望する者は、本公告に示した物品を納入できることを証明する書類を指定する期日までに提出しなければならない。入札者は、支出負担行為担当官から当該書類に関し説明を求められた場合は、これに応じなければならない。

(4) 入札の無効 本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書、入札者に求められる義務を履行しなかった者の提出した入札書その他入札の条件に違反した者の提出した入札書は無効とする。

(5) 契約書作成の要否 要

(6) 落札者の決定方法 本公告に示した物品を納入できると支出負担行為担当官が判断した入札者であって、予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。

(7) 手続きにおける交渉の有無 無

(8) その他 詳細は入札説明書による。

入札説明書

国立療養所沖縄愛楽園における免疫自動分析システム一式の調達に係る入札公告（平成29年2月9日付）に基づく入札については、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）、契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）及びこれに基づく政令等に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1. 契約担当官等

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園事務部長 竹内 正広

2. 調達内容

(1) 品名及び予定数量

免疫自動分析システム一式

(2) 特質性：入札説明書及び仕様書による

(3) 納入期限：平成29年 3月31日

(4) 納入場所：沖縄県名護市字済井出1192

国立療養所沖縄愛楽園

(5) 入札方法：落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8%に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載し提出しなければならない。

上記開札の結果、各人の入札価格が予定価格を超過したときは、直ちに再度の入札を行う。

(6) 入札保証金及び契約保証金：免除する。

3. 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令第70条の規程に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であっても、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中の「特別の理由がある場合」に該当する。

(2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。

(3) 次の事項に該当する者は、競争に参加させない。

(ア) 資格審査申請書又は添付書類に虚偽の事実を記載した者。

(イ) 経営の状況又は信用度が極度に悪化している者。

(4) 平成28・29・30年度厚生労働省競争参加資格（全省庁統一資格）において、「物品の製造（医療機器類）」又は「物品の販売（医療機器類）」でB、C

又はD等級に格付けされ、九州・沖縄地域の競争参加資格を有する者であること。

なお、一般競争参加者資格に関する問い合わせ先は、次のとおりである。

〒905-1635

沖縄県名護市字済井出1192

国立療養所沖縄愛楽園会計課 会計班長 岩橋 竜一

TEL 0980-52-8331 内線8020

(5) 薬事法に基づく医療機器の販売業の許可を得ていることを証明した者であること。

(6) 入札時において厚生労働省から指名停止を受けている期間でないこと。

(7) 次の各号に掲げる制度が適用される者にあつては、この入札の入札書提出期限の直近2年間(⑤及び⑥については2保険年度)の保険料について滞納がないこと。

①厚生年金保険 ②健康保険(全国健康保険協会が管掌するもの)

③船員保険 ④国民年金 ⑤労働者災害補償保険 ⑥雇用保険

注 各保険料のうち⑤及び⑥については、当該年度における年度更新手続きを完了すべき日が未到来の場合にあつては前年度及び前々年度、年度更新手続きを完了すべき日以降の場合にあつては当該年度及び前年度の保険料について滞納がない(分納が認められているものについては納付期限が到来しているものに限る。)こと。

(8) 過去1年以内に、厚生労働省所管法令違反により行政処分等を受けていないこと。

4. 入札書の提出場所等

入札書は、電子調達システムにより提出するものとする。ただし、紙により入札の参加を希望する場合は別紙8により事前に申し出る必要がある。

また、電子調達システムによる入札の場合には、当該システムに定める手続きに従い、提出期限までに入札書を提出しなければならない。

なお、入札者は、その提出した入札書の引換え、変更又は取消しをすることができない。

(1) 電子調達システムにより入札を行う場合

入札書の提出期限

平成29年2月24日(金)9時30分

(電子調達システムに到着するように提出すること。なお、電子入札の場合には、通信状況により提出期限時間内に電子調達システムに入札書が到着しない場合があるので、時間の余裕を持って行うものとする。)

(2) 紙により入札を行う場合

①入札書の受領期限

平成29年2月24日(金)9時30分

(郵送の場合は受領期限の前日までに到着するように送付し、かつ、受領の確認をする必要がある。)

②入札書の提出場所、契約条項を示す場所及び問い合わせ先

〒905-1635 沖縄県名護市字済井出1192

国立療養所沖縄愛楽園 会計班長 岩橋 竜一

TEL0980-52-8331 内線8020

③ 入札書の提出方法

1 競争参加資格者の場合(本店の代表者が直接入札する場合)

(別紙1)の様式にて作成し、直接提出する場合は封筒に入れ封印し、かつ、その封皮に氏名(法人の場合はその名称又は商号)、宛名(国立療養所沖縄愛楽園支出負担行為担当官と記載)及び「平成29年2月24日開札[免疫自動分析システム一式]入札書在中」と朱書きしなければならない。本店の代表者が直接入札する場合は委任状の提出は要しない。

2 競争参加資格者以外の場合(各支店・営業所等)

(ア) 支店長・営業所長が入札する場合(代理人)

入札書は別紙2の様式にて上記③の1に同じとする。委任状については、競争参加資格者からの委任状(別紙5の様式)を提出するものとする。

(イ) 本店の社員が入札する場合(代理人)

入札書は別紙3の様式にて上記③の1に同じとする。委任状については、競争参加者からの委任状(別紙6の様式)を提出するものとする。

(ウ) 支店・営業所等の社員が入札する場合(復代理人)

入札書は別紙4の様式にて上記③の1に同じとする。

委任状については、競争参加者からの支店長・営業所長等への委任状(別紙5の様式)及び支店・営業所長等から社員への委任状(別紙7の様式)を提出するものとする。上記各委任状の提出がない入札書は無効となるので注意すること。

④ 郵便(書留郵便に限る)により提出する場合は、二重封筒とし、表封筒に「平成29年2月24日開札[免疫自動分析システム一式]入札書在中」の旨朱書きし、中封筒の封筒皮には直接提出する場合同様に氏名等を記し、上記(1)②宛に入札書の受領期限までに送付しなければならない。

⑤ この入札に参加を希望する者は、入札書の提出時に支出負担行為担当官が別に指定する暴力団等に該当しない旨の誓約書を提出しなければならない。

(3) 入札の無効

① 本入札説明書に示した競争参加資格のない者、入札条件に違反した者又は入札者に求められる義務を履行しなかった者の提出した入札書は無効とする。

② 国の物品等又は特定役務の調達手続きの特例を定める政令(昭和55年政令第300号)第8条第3項の規定に基づき入札書を受領した場合であって、当該資格審査が

開札日時までに終了しない時又は資格を有すると認められなかった時は、当該入札書は無効とする。

- ③ 4. (2)⑤の誓約書を提出せず、又は虚偽の誓約をし、若しくは誓約書に反することとなったときは、当該者の入札を無効とするものとする。

(4) 入札の延期等

入札者が相連合し、又は、不穩の挙動をする場合であつて、競争入札を公正に執行することができない状態にあると認められる時は、当該入札を延期し、又はこれを取り止めることがある。

(5) 代理人による入札

- ① 代理人が電子調達システムにより入札する場合には、当該システムで定める委任の手続きを終了しておかねばならない。

なお、電子入札においては、複代理人による応札は認めない。

代理人が紙により入札する場合には、入札書に競争参加者の氏名又は商号、代理人であることの表示及び当該代理人の氏名を記入して押印(外国人の署名を含む。)をしておくとともに、開札日時までに別紙5～7のいずれかの様式による代理委任状を提出しなければならない。

- ② 入札者又はその代理人は、本件調達にかかる入札について他の代理人を兼ねることができない。

5.開札

(1) 開札の日時及び場所

平成29年2月24日(金) 10時30分

国立療養所沖縄愛楽園 管理棟2階会議室

(2) 電子調達システムによる入札の場合

電子調達システムにより入札書を提出した場合には、立ち会いは不要であるが、入札者又はその代理人は、開札時刻には端末の前で待機しておくものとする。

(3) 紙による入札の場合

- ① 開札は、入札者又はその代理人を立ち合わせて行う。ただし、入札者又はその代理人が立ち会わない場合は、入札に関係のない職員を立ち合わせて行う。
- ② 入札者又はその代理人は、開札時刻後においては、開札場に入場することはできない。
- ③ 入札者又はその代理人は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は入札権限に関する委任状を提示又は提出しなければならない。
- ④ 入札者又はその代理人は、支出負担行為担当官が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。

(4) 再度入札の取扱い

開札をした場合において、入札者又はその代理人の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、再度の入札を行う。

なお、電子調達システムにおいては、再入札通知書に示す時刻までに再度の入札を行うものとする。

6. その他

(1) 契約手続に使用する言語及び通貨 日本語及び日本国通貨

(2) 入札者に要求される事項

この一般競争に参加を希望する者は、3の競争参加資格を有すること証明する書類及び応札仕様書・質疑書(質疑無い場合でも任意の用紙に「質疑無し」を提出)・誓約書を平成29年2月23日(木)までに提出しなければならない。また、購入物品に係る迅速なアフターサービス・メンテナンスの体制を整備することを確約した者であること。さらに、開札日の前日までの間において、支出負担行為担当官から当該書類に関し説明を求められた場合は、これに応じなければならない

(3) 落札者の決定方法

最低価格落札方式とする。

① 上記4(1)に従い書類・資料を添付して入札書を提出した入札者であって、上記3の競争参加資格及び仕様書の要求用件をすべて満たし、当該入札者の入札価格が予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であり、かつ、最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。

② 落札者となるべき者が二人以上あるときは、直ちに当該入札者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。また、入札者又はその代理人が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係ない職員がこれに代わってくじを引き落札者を決定する。

③ 落札が決定したときは、入札者にその氏名(法人の場合にはその名称)及び金額を口頭により通知するものとする。

(4) 契約書の作成

① 競争入札を執行し、契約の相手方を決定したときは、延滞なく契約書を取り交わすものとする。

② 契約書を作成する場合において、契約の相手方が遠隔地にあるときは、まず、その者が契約書の案に記名押印し、更に支出負担行為担当官が当該契約書の案の送付を受けてこれに記名押印するものとする。

③ 上記の②の場合において支出負担行為担当官が記名押印したときは、当該契約書の1通を契約相手方に送付するものとする。

④ 支出負担行為担当官が契約の相手方とともに契約書に記名押印しなければ、本契約は確定しないものとする。

(5) 支払条件

別紙契約書(案)に定めるとおり、業務の履行が行われた後適法な支払請求書を受領した日から、30日以内に契約金額を支払う。

(6) 障害発生及び電子調達システム操作等の問い合わせ先は下記の通りとする。

・ヘルプデスク 0570-014-889(8:30~18:30 土日祝日を除く)

・ホームページ <https://www.geps.go.jp/>

ただし、申請書類、応札の締め切り時間が切迫しているなど緊急を要する場合には、
4（2）②の入札書の提出場所に連絡すること。

免疫自動分析装置 一式

仕様書

技術的要求要件の概要

1. 本調達物件に係わる性能、機能及び技術など（以下「性能等」という。）の要求要件（以下「技術的要件」という。）は別添に示す通りである。
2. 技術的要件は必要とする最低限の要求要件を示してあり、入札機器の性能等がこれを満たしていないと判断された場合には不合格となり、落札決定の対象から除外する。
3. 入札機器の性能等が技術的要求要件を満たしているか否かの判定は、当院技術審査委員会において、入札機器に係わる技術仕様書その他の入札説明書で求める提出資料の内容を審査して行う。

1. 調達機器及び構成内訳

調達機器品名 免疫自動分析装置 1式
(機器構成)

- 1) 機器本体
- 2) コンピュータ本体
- 3) モニター
- 4) キーボード
- 5) プリンター

2. 性能・特質等の機能に関する要件

1) 免疫自動分析装置本体

- (1) 化学発光免疫測定法（CLIA法）を採用し感度、特異性に優れていること
- (2) 試薬搭載数は15項目以上同時搭載可能であること
- (3) 検体、試薬分注はプローブ方式又はチップ交換方式であること
- (4) 血中薬物濃度測定が可能であること
- (5) 試薬包装単位が100回用であること
- (6) 検体処理能力が最大80テスト/時間以上であること
- (7) NGALの測定が可能なこと
- (8) 研修コースを設けており、操作方法や保守管理方法を習得できること
- (9) カスタマーサポートセンターが設置してあり、機器に関する質問、データトラブル、學術サポートに対応できること
- (10) 上記の事項が1台の機器でまかなえること

2)その他の要件

- (1)本装置は、沖縄愛楽園内に設置すること
- (2)入札機器は入札時点で製品化されていること
- (3)入札機器のうち医療機器に関しては、入札時点で薬事法に定められている製造承認を得ている物品であること
- (4)装置の搬入・据え付け・配線・調整については、当院の業務に支障を来さないよう、当院の職員と協議の上、その指示に従うこと

3)保守体制

- (1)納品後1年間は、通常の使用により故障した場合は無償修理に応じること

4)教育体制等

- (1)取扱い説明書に関する教育訓練は、当院が指定する日時、場所で行うこと
- (2)各説明書のマニュアルは、日本語版を提供すること

物品売買契約書（案）

委託者支出負担行為担当官 国立療養所沖縄愛楽園事務部長 竹内 正広（以下「甲」という。）と受託者（以下「乙」という。）との間について、次の条項をもって契約を締結する。

第1条 契約保証金は免除する。

第2条 甲及び乙は本契約条件並びに別に定める仕様書に従い、これを履行しなければならない。

第3条 納入期限及び納入場所は下記のとおりとする

納入期限：平成29年3月31日

納入場所：国立療養所沖縄愛楽園

第4条 契約金額

品名	規格	単価	契約金額	消費税等額（円）
免疫自動分析システム一式				

契約金額 一金 円（内消費税等額 円）

上記消費税等額は、消費税法第28条第1項及び第29条並びに地方税法第72条の7及び72条の83の規定に基づき契約金額に108分の8を乗じて得た額である。

第5条 乙は、納品のときは甲に通知し立会のうえ検査を受けなければならない。

第6条 乙は、甲の行った検査に不合格となった場合には、甲の指定する期限内に手直しを行う。この場合において、乙はこれを拒むことができないのみならず、これに伴う一切の費用を負担すること。

第7条 乙（中小企業信用保険法（昭和25年法律第264号）第2条に定める中小企業者）は、本契約によって生ずる権利の全部又は一部を甲の承諾を得ずに、第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会、中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の2に規定する金融機関、資産の流動化に関する法律（平成10年法律第105号）第2条第2項に規定する特定目的会社及び信託業法（平成16年法律第154号）第2条第2項に規定する信託会社に対して債権を譲渡する場合にあっては、この限りでない。

2. 乙が本契約により行うこととされた全ての給付を完了する前に、乙が前項ただし書きに基づいて、特定目的会社及び信託会社（以下「丙」という。）に債権の譲渡を行い、乙が甲に対し、民法（明治29年法律第89号）第467条及び債権譲渡の対抗要件に関する民法の特例等に関する法律（平成10年法律第104号）第2条第2項に規定する通知又は承諾の依頼を行い、若しくは、乙が特定債権等に係る事業の規制に関する法律（平成4年法律第77号）に規定する公告を行った場合に

あつては、甲は次の各号に掲げる異議を留めるものとする。

- ① 甲は、乙に対して有する請求債権については、譲渡対象債権金額と相殺し、又は、譲渡債権金額を軽減する権利を有する。
- ② 丙は、譲渡対象債権を第1項ただし書きに掲げる者以外の者に譲渡し、又はこれに質権を設定しその他債権の帰属並びに行使を害すべきことはできないこと。
- ③ 甲は、債権譲渡後も、乙との協議のみにより、納地の変更、契約金額の変更その他契約内容の変更を行うことがあり、この場合、丙は異議を申し立てないものとし、当該契約の変更により、譲渡対象債権の内容に影響が及ぶ場合には、もっぱら乙と丙の間において解決されなければならないこと。

3. 第1項ただし書きに基づいて乙が第三者に債権の譲渡を行った場合においては、甲が行う支弁の効力は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第42条の2に基づき、甲が同令第1条第3号に規定するセンター支出官に対して支出の決定の通知を行ったときに生ずるものとする。

4. 乙は、第1項但し書きの規定による債権譲渡をすることとなったときは、速やかにその旨を甲に届け出なければならない。

第8条 乙は、第10条以外の事情により作業期限内に履行できない場合は作業期限の延長を申し出ることができる。

第9条 前条の遅滞料は、その納期の翌日から起算して履行した日までの日数に応じて、1日につき遅延となった部分に相当する額に対して、100分の1の率により算出した額とする。

第10条 天災地変その他乙の責に帰しがたい事由により、作業期限内に履行できないときは、乙はその事情を詳記して期限内に履行延期の申し出をすることができる。この場合、甲はその申し出をやむを得ないと認めたときは特に前条の延滞料を免除して作業期限の延期を許可することができる。

第11条 甲はこの契約に関し、乙が次の各号の一に該当するときは、この契約を解除することができる。

一 刑法（明治40年法律第45号）第96条の3又は同法第198条の規定による刑の容疑により公訴を提起されたとき（乙の役員又はその使用人が当該公訴を提起されたときを含む）。

二 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為を行ったことにより、次のいずれかに該当することとなったとき。

ア 独占禁止法第49条に規定する排除措置命令が確定したとき。

イ 独占禁止法第62条第1項に規定する納付命令が確定したとき。

2 第6条及び第10条により、特に延期した場合を除き作業期限内に履行されないとき。

3 甲において、乙が到底完全に契約を履行する見込みがないと認めたとき。

4 乙において、本契約の解除を申し出たとき。

5 甲が行う検査、監督に際して、乙もしくは代理人、使用人等が係員の職務執行を妨げ又は詐欺その他の行為があると認めたとき。

6 甲において、到底作業期限内に履行できないとみとめたとき。

7 乙が厚生労働省所管法令違反により行政処分等を受けたとき、または本条項

について虚偽の申告をしていたことが判明したとき。

8 乙が契約者たる資格を欠いたとき。

第12条 乙は甲が契約に違反したことにより、履行が不可能になったときは、この契約の全部若しくは一部を解除することができる。

第13条 乙は、この契約に関し、次の各号の一に該当するときは、甲がこの契約を解除するか否かにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は甲に生じた実際の損害額又はこの契約が第3条に規定する契約期間の終期まで継続した場合に甲が支払うべき金額（契約期間を定めない場合は契約代金額）の10分の1に相当する額のいずれか多い額を甲の指定する期間内に支払わなければならない。

一. 第11条第1号の刑が確定したとき。

二. 公正取引委員会が、乙に対して独占禁止法第49条第1項に規定する排除措置命令又は第50条第1項に規定する納付命令を行い、当該命令が同法第49条第7項又は第50条第5項の規定により、確定したとき。

三. 公正取引委員会が、乙に対して独占禁止法第65条、第66条第1項、第2項の又は第3項並びに第67条の規定による審決（同法第66条第3項による原処分全部を取り消す審決及び第67条第2項による該当する事実がなかったと認める場合の審決を除く）を行い当該審決が確定したとき（独占禁止法第77条の規定により、この審決の取消しの訴えが提起されたときを除く。）

四. 公正取引委員会が乙に対して行った審決に対し、乙が独占禁止法第77条の規定により提起した審決取消しの訴えについて請求棄却又は訴え棄却の判決が確定したとき。

2. 乙は契約の履行を理由として、前項の賠償金を免れることができない。

3. 上記規定にかかわらず次の各号の一に該当するときはこの限りではない。

一 第11条1号の刑が確定せず、棄却されたとき。

二 命令又は処分の対象となる行為が、独占禁止法第2条第9項第3号に該当するとき。

4. 前項によるほか、別に法令（製造物責任法等）の規定がある場合にはその法令の規定によるものとする。

第14条 第11条により甲が契約を解除したときは、同条第3号に該当する場合で乙に正当な事由があるときは、又は同条7号によるときを除き、契約金額の10分の1に相当する額を違約金として甲の指定する期限内に国庫に納付しなければならない。

第15条 乙は、甲が契約に違反したことにより業務の遂行が不可能になったときは、この契約の全部若しくは一部を解除することができる。

第16条 甲は、第11条の規定により契約を解除した場合において損害を生じたときは、乙に対して損害賠償を請求することができる。

2 乙は、第13条の規定により契約を解除した場合は、乙が直接受けた損害額を、甲に請求することができる。

第17条 契約解除の場合において履行済部分のあるときは、甲において相当と認める額を乙に支払う。

第18条 甲は、この契約を甲の都合により変更することができ、乙はこれを拒むことは

できない。ただし、これに伴う契約金額の増減及び履行期の伸縮は甲が定める。

第19条 乙は、第5条の検査後であっても、履行内容にかしがあるときは、乙はその責任を負うものとし、甲の指示に従わなければならない。

第20条 甲は、確認又は検査に合格した後、乙の適法な請求書を受領した日から30日以内にその対価を支払わなければならない。

第21条 甲が前条の期限内に対価を支払わないときは、期限の翌日から起算して支払の日まで年2.8%の遅延利息を支払う。

(談合等の不正行為に係る解除)

第22条 甲は、本契約に関して、次の各号の一に該当するときは、本契約の全部又は一部を解除することができる。

一 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人(乙又は乙の代理人が法人の場合にあっては、その役員又は使用人。以下同じ。)に対し、独占禁止法第7条又は同法第8条の2(同法第8条第1号若しくは第2号に該当する行為の場合に限る。)の規定による排除措置命令を行ったとき、同法第7条の2第1項(同法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。)の規定による課徴金の納付命令を行ったとき、又は同法第7条の2第18項若しくは第21項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。

二 乙又は乙の代理人が刑法(明治40年法律第45号)第96条の6若しくは同法第198条又は独占禁止法第89条第1項の規定による刑の容疑により公訴を提起されたとき(乙の役員又はその使用人が当該公訴を提起されたときを含む。)

2 乙は、本契約に関して、乙又は乙の代理人が独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の規定による通知を受けた場合には、速やかに、当該通知文書の写しを甲に提出しなければならない。

(談合等の不正行為に係る違約金)

第23条 乙は、本契約に関し、次の各号の一に該当するときは、甲が本契約の全部又は一部を解除するか否かにかかわらず、違約金(損害賠償金の予定)として、甲の請求に基づき、請負(契約)金額(本契約締結後、請負(契約)金額の変更があった場合には、変更後の請負(契約)金額)の100分の10に相当する額を甲が指定する期日までに支払わなければならない。

一 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対し、独占禁止法第7条又は同法第8条の2(同法第8条第1号若しくは第2号に該当する行為の場合に限る。)の規定による排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき。

二 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対し、独占禁止法第7条の2第1項(同法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。)の規定による課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。

三 公正取引委員会が、乙又は乙の代理人に対し、独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。

四 乙又は乙の代理人が刑法第96条の6若しくは同法第198条又は独占禁止法第89条第1項の規定による刑が確定したとき。

2 乙は、契約の履行を理由として、前各項の違約金を免れることができない。

3 第1項の規定は、甲に生じた実際の損害の額が違約金の額を超過する場合において、甲がその超過分の損害につき賠償を請求することを妨げない。

(違約金に関する遅延利息)

第24条 乙が前条に規定する違約金を甲の指定する期日までに支払わないときは、乙は、当該期日を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(属性要件に基づく契約解除)

第25条 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

(1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ）であるとき

(2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

(3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直積的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

(4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき

(5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的非難されるべき関係を有しているとき

(行為要件に基づく契約解除)

第26条 甲は、乙が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為をした場合は、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

(1) 暴力的な要求行為

(2) 法的な責任を越えた不当な要求行為

(3) 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為

(4) 偽計又は威力を用いて支出負担行為担当官の業務を妨害する行為

(5) その他前各号に準ずる行為

(表明確約)

第27条 乙は、前2条各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約しなければならない。

2 乙は、前2条各号の一に該当する者（以下「解除対象者」という。）を下請負人等（下請負人（下請が数次にわたるときは、すべての下請負人を含む。）及び再委託者（再委託以降すべての受託者を含む。）並びに自己、下請負人又は再委託者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。）としないことを確約しなければならない。

(下請負契約に関する契約解除)

第28条 乙は、契約後に下請負人等が解除対象者であることが判明したときは、直ちに当該下請負人等との契約を解除し、又は下請負人に対し契約を解除させるようにしなければならない。

2 甲は、乙が下請負人等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは下請負人等の契約を承認したとき、又は不当な理由がないのに前項の規定に反して当該下請負

人等との契約を解除せず、若しくは下請負人等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(契約解除に基づく損害賠償)

第29条 甲は、第22条、第25条、第26条及び第28条第2項の規定により本契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

2 乙は、甲が第22条、第25条、第26条及び第28条第2項の規定により本契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。

(不当介入に関する通報・報告)

第30条 乙は、自ら又は下請負人等が、暴力団、暴力団員、社会運動・政治運動標ぼうゴロ等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は下請負人をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

(厚生労働省所管法令違反に係る報告)

第31条 乙は、乙又はその役員若しくは使用人が、厚生労働省所管法令違反により行政処分を受け又は送検された場合は、速やかに甲に報告する。

(厚生労働省所管法令違反に係る契約解除)

第32条 甲は、次の各号の一に該当する事由が生じたときは、催告その他の手続を要せず、乙に対する書面による通知により、本契約の全部又は一部を解除することができる。

(1) 乙又はその役員若しくは使用人が、厚生労働省所管法令違反により行政処分を受け又は送検されたとき。

(2) 乙が本契約締結以前に甲に提出した、厚生労働省所管法令違反に関する自己申告書に虚偽があったことが判明したとき。

(3) 乙が、乙又はその役員若しくは使用人が第1号の状況に至ったことを報告しなかったことが判明したとき。

2 本契約の再委託先について前項の状況に至った場合も、同様とする。

(厚生労働省所管法令違反に係る違約金)

第33条 第32条の規定により甲が契約を解除した場合、乙は、違約金として、甲の請求に基づき、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の100分の10に相当する額を甲が指定する期日までに支払わなければならない。

2 乙は、契約の履行を理由として、前項の違約金を免れることができない。

3 第1項の規定は、甲に生じた実際の損害の額が違約金の額を超過する場合において、甲がその超過分の損害につき賠償を請求することを妨げない。

第34条 この契約について甲乙間に紛争又は疑義が生じた場合には、必要に応じて甲乙協議のうえ、選定した者に調停を依頼する。

上記の契約締結を証するため本書2通を作成し、双方記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成29年 2月 日

甲 沖縄県名護市字済井出1192番地
支出負担行為担当官
国立療養所沖縄愛楽園事務部長 竹内 正広

乙

(別紙5)

委任状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

委任者（競争参加者）

住所

氏名 ○○○○株式会社

代表取締役社長 ○○○○ 印

私は、下記の者を代理人と定め、貴園との間における下記事項に関する権限を委任します。

記

受任者（代理人）

住所

氏名 ○○○○株式会社△△支店

支店長 △ △ △ △

委任事項

1. 入札及び契約の締結に関すること
2. 入札保証金及び契約保証金の納付及び還付に関すること
3. 契約物品の納入及び取り下げに関すること
4. 契約代金の請求及び受領に関すること
5. 復代理人の選任に関すること
6. その他上記に付随する一切のこと

委任期間

平成 年 月 日～平成 年 月 日

受任者（代理人）使用印

受任者使用印

(別紙5)

委任状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

委任者（競争参加者）

住所

氏名

私は、下記の者を代理人と定め、貴園との間における下記事項に関する権限を委任します。

記

受任者（代理人） 住所
氏名

- 委任事項
1. 入札及び契約の締結に関すること
 2. 入札保証金及び契約保証金の納付及び還付に関すること
 3. 契約物品の納入及び取り下げに関すること
 4. 契約代金の請求及び受領に関すること
 5. 復代理人の選任に関すること
 6. その他上記に付随する一切のこと

委任期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日

受任者（代理人）使用印

受任者使用印

サンプル

(別紙6)

委任状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

委任者（競争参加者）

住所

氏名 ○○○○株式会社

代表取締役社長 ○○○○ 印

私は、下記の者を代理人と定め、貴園との間における下記事項に関する権限を委任します。

記

受任者（代理人）

住所

氏名 ○○○○株式会社

△ △ △ △

委任事項 入札に関する一切の権限

委任期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日

受任者（代理人）使用印

受任者使用印

(別紙6)

委任状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

委任者（競争参加者）

住所

氏名

私は、下記の者を代理人と定め、貴園との間における下記事項に関する権限を委任します。

記

受任者（代理人） 住所
氏名

委任事項 入札に関する一切の権限

委任期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日

受任者（代理人）使用印

受任者使用印

(別紙7)

委任状

私は××××を〇〇〇〇株式会社代表取締役社長〇〇〇〇（競争参加者）の復代理人と定め、平成 年 月 日貴園において執行される「〇〇〇〇」の入札に関する下記の権限を委任します。

記

委任事項 入札に関する一切の権限

委任期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日

受任者（復代理人）使用印

受任者使用印

平成 年 月 日

(住所)

(氏名) 〇〇〇〇株式会社△△支店

支店長△ △ △ △ 印

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

(別紙7)

委 任 状

私は _____ を _____ (競争参加者) の
復代理人と定め、平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日貴園において執行される「免疫自動分析システム一式」の入札に関する下記の権限を委任します。

記

委任事項 入札に関する一切の権限

委任期間 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日～平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

受任者（復代理人）使用印

受任者使用印

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

(住所)

(氏名)

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

サンプル

(別紙1)

入札書（第 回目）

品名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します

平成 年 月 日

(住所)

(氏名) ○○○○株式会社

代表取締役社長 ○○○○ 印

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

(別紙1)

入札書(第 回目)

品名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____円也

様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名)

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

サンプル

(別紙2)

入札書（第 回目）

品名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名) ○○○○株式会社
代表取締役社長 ○○○○

代理人 ○○○○株式会社△△支店
支店長 □ □ □ □ 印

支出負担行為担当官
国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

(別紙2)

入札書 (第 回目)

品 名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名)

代理人

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

サンプル

(別紙3)

入札書（第 回目）

品名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名) ◎◎ 株式会社
代表取締役社長 □□ ◎◎

代理人 印

支出負担行為担当官
国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

(別紙3)

入札書（第 回目）

品 名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名)

代理人

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

サンプル

(別紙4)

入札書（第 回目）

品 名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書案等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名) ○○○○株式会社
代表取締役社長 ○○○○

復代理人

△ △ △ △ 印

支出負担行為担当官
国立療養所沖繩愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

(別紙4)

入札書（第 回目）

品 名 免疫自動分析システム一式

入札金額 金 _____ 円也

仕様書、入札説明書、及び契約書案等をすべて熟知のうえ、上記のとおり入札します。

平成 年 月 日

(住所)

(氏名)

復代理人

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園 事務部長 竹内 正広 殿

誓 約 書

- 私
- 当社

は、下記 1 及び 2 のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、当方の個人情報を警察に提供することについて同意します。

記

1 契約に相手方として不適当な者

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

2 契約の相手方として不適当な行為をする者

- (1) 暴力的な要求行為を行う者
- (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者
- (3) 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者
- (4) 偽計又は威力を用いて契約担当官等の業務を妨害する行為を行う者
- (5) その他前各号に準ずる行為を行う者

年 月 日

住所（又は所在地）

社名及び代表者名

※ 個人の場合は生年月日を記載すること。

※ 法人の場合は役員の氏名及び生年月日が明らかとなる資料を添付すること。

自己申告書

下記の内容について誓約いたします。

なお、この誓約書に虚偽があったことが判明した場合、又は報告すべき事項を報告しなかったことが判明した場合には、本契約を解除されるなど当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

記

- 1 厚生労働省から指名停止の措置を受けている期間中でないこと。
- 2 過去1年以内に、当社又はその役員若しくは使用人が、業務に関し、厚生労働省所管法令違反により行政処分を受け又は送検されていないこと。
- 3 契約締結後、当社又はその役員若しくは使用人が、業務に関し、厚生労働省所管法令違反により行政処分を受け又は送検された場合には、速やかに報告すること。
- 4 前記1から3について、本契約について当社が再委託を行った場合の再委託先についても同様であること。

平成 年 月 日

住所

商号又は名称

代表者氏名

印

支出負担行為担当官

国立療養所沖縄愛楽園事務部長 殿

保険料納付に係る申立書

当社は、直近2年間に支払うべき社会保険料（厚生年金保険、健康保険（全国健康保険協会管掌のもの）、船員保険及び国民年金の保険料をいう。）及び直近2保険年度に支払うべき労働保険料（労働者災害補償保険及び雇用保険の保険料をいう。）について、一切滞納がないことを申し立てます。

なお、この申立書に虚偽内容が認められたときは、履行途中にあるか否かを問わず当社に対する一切の契約が解除され、損害賠償金を請求され、併せて競争参加資格の停止処分を受けることに異議はありません。

また、当該保険料の納付事実を確認するために関係書類の提示・提出を求められたときは、速やかに対応することを確約いたします。

平成_____年_____月_____日

(住 所)

(名 称)

(代表者)

印

支出負担行為担当官

国立療養所沖繩愛楽園事務部長 竹内 正広 殿

平成 年 月 日

支出負担行為担当官
国立療養所沖縄愛楽園事務部長 竹内 正広 殿

住 所
商 号
代表者氏名

電子入札案件の紙入札方式での参加について

貴部局発注の下記入札案件について、電子調達システムを利用して入札に参加できないので、紙入札方式での参加をいたします。

記

- 1 入札件名 免疫自動分析システム一式
- 2 電子調達システムでの参加ができない理由